

要 約

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	田 中 求
主 論 文 題 名				
Prognostic significance of circulating tumor cells in patients with advanced esophageal cancer (進行食道癌患者における末梢血中循環がん細胞の予後予測因子としての意義)				
(内 容 の 要 旨)				
<p>CTC (circulating tumor cell: 循環がん細胞) はこれまで様々な癌腫においてその存在意義や測定方法について研究されてきた。その中でもCellSearch System (米国Veridex社) は末梢血中のCTCを正確性と再現性をもって測定する検査方法であり、転移性乳癌、転移性前立腺癌、転移性大腸癌においてCTC数と予後の相関が報告されており、すでに米国FDAで認可されている。当科では130例の消化器癌患者と41例の健常者におけるCTC数をCellSearch Systemで測定し、消化器癌患者のうちCTC数が2以上の患者群は2未満の患者群よりも有意に予後が不良であること、CTC数が2以上であることが胃癌と結腸・直腸癌では腹膜播種、食道癌では胸膜播種と有意に相関することを報告してきた。今回本研究では、進行食道癌患者および再発食道癌患者における治療(化学療法あるいは化学放射線療法)の開始前後のCTC数が予後予測因子としての有用性、および治療効果予測因子としての有用性を検討した。</p> <p>2010年3月から2012年3月の間に慶應義塾大学病院で診断された進行食道癌および再発食道癌で化学療法あるいは化学放射線療法が開始となった38例の食道癌患者に関して、その治療前と治療開始後(およそ3-5週間)の2回にわたりCellSearch SystemでCTC数を測定した。</p> <p>38例の食道癌患者のうち、15名が再発食道癌患者、23名が進行食道癌患者であった。治療効果判定の内訳は1人(2.6%)がcomplete response、16人(42.1%)がpartial response、12人(31.6%)がstable disease、9人(23.7%)がprogressive diseaseであった。38例の患者群をCTC数によって解析すると、CTC数が2以上であった患者群は2未満であった患者群よりも有意に予後が不良であった(治療前:P=0.047、治療後:P=0.011)。また、治療前後におけるCTC数の変化と治療効果判定の間には有意な相関が認められた(P=0.036)。治療開始前後の両方においてCTC数が2以上の患者群は治療開始前後の両方においてCTC数が2未満の患者群よりも有意に予後が不良であった(P=0.002)。CTC数の減少率が80%未満の患者群は減少率が80%以上の患者群よりも有意に予後が不良であった(P=0.035)。多変量解析では治療開始後のCTC数が独立した予後予測因子であった(P=0.011)。</p> <p>本研究で進行・再発食道癌におけるCTC数が患者の予後予測因子および治療効果予測因子として有用である可能性が示唆された。</p>				